

東京都議会自民党 殿
東京都議会公明党 殿
都民ファーストの会 東京都議団 殿
大田区議会議長 塩野目正樹 殿

東京商工会議所大田支部 会長 深尾 定男
大田工業連合会 会長 舟久保利明
大田区商店街連合会 会長 北見 公秀

地域の発展に資する新空港線の早期整備と沿線まちづくりに関する要望

令和2年度は新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言の発令という未曾有の事態から始まりました。宣言の解除後も消費需要の落ち込みは甚大であり、規模の大小を問わず、あらゆる業種において過去最大の赤字を記録する等、百年に一度と言われる感染症が大田区内の経済活動に与えた悪影響は計り知れません。こうした中、大田区内の企業及び商店街は生き残りをかけ、長年培ってきた経営ノウハウやネットワークを最大限に活用し、この未曾有の危機に対し果敢に立ち向かっているところであります。

我々の先輩方は関東大震災や戦災から力強く立ち上がり、災禍前よりも賑わいのある大田区を見事に創り上げてきました。我々も、このコロナ禍を乗り越え、コロナ前より賑わいと活気のある大田区を創り上げる所存ではありますが、一方、長期に渡る経済不振には、官民が一体となって立ち向かっていく必要があります。

この経済復興を成し遂げる一つの重要な取組として、長年の懸案である新空港線整備及び沿線のまちづくりの推進が欠かせません。多摩川線を経由し東横線や副都心線などの複数路線との相互直通運転が想定されている新空港線の整備は、都内のヒトやモノの流れを活発化し、空港へのアクセスを改善する一方、大田区内の沿線都市の機能更新や、不振に苦しむ大田区内の経済を回復させるための絶好の事業となります。

アフターコロナの社会において、空港へのアクセス改善は首都東京の国際競争力強化に必要不可欠なことであり、先を見越した早急な新空港線の整備が求められます。

さて、我々大田区の中心市街地である蒲田のまちは、戦後の復興によって形成され、現在、機能更新の時期を迎えています。このような中、近隣の状況を見ますと、川崎駅の再開発には目を見張るものがあります。また、2027年にリニアの開通が予定されている品川駅周辺も大きく動き出そうとしているほか、大井町駅ではJR羽田空港アクセス線の開通も見込み品川区役所の移転などを含む大規模な再開発が予定されており、周辺地域の勢いが止まりません。

いずれも複数の鉄道路線が乗り入れ、且つ鉄道駅を中心としたまちづくりを行っているまちであり、近年は多くの人々が訪れ、地域は活気に溢れ、発展を遂げています。

このままでは、人々は品川、大井町、川崎等、駅を含めた大規模なリニューアルが行われている周辺のまちへ流出してしまいます。この流れをくい止め、蒲田のまちや大田区の経済を発展させるためにも、新線建設という、大きなインパクトのあるプロジェクトが必要です。

蒲田をはじめとする大田区内のまちに賑わいを取り戻し、再び大田区全体を活性化させるためにも、新空港線の一刻も早い整備を要望します。